

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	15-125	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Landscape of dietary factors associated with risk of gastric cancer: A systematic review and dose-response. 胃癌リスクと関連する食事因子の展望：系統的レビューと用量反応メタ解析		
執筆者		
Fang X, Wei J, He X, An P, Wang H, Jiang L, Shao D, Liang H, Li Y, Wang F, Min J.		
掲載誌		
Eur J Cancer. 2015 Dec;51(18):2820-32. doi: 10.1016/j.ejca.2015.09.010. Review.		
キーワード	PMID	
胃癌、飲酒、食塩、野菜、果物	26589974	
要 旨		
<p>目的：食事因子と胃癌リスクとの関連について、系統的に調査するため前向き研究を対象にメタアナリシスを行った。</p> <p>方法：食事因子と胃癌リスクに関連する 2015 年 6 月 30 日までの論文を Medline、Embase、Web of Science で検索した。その中で、食事因子の胃癌リスクとその 95%信頼区間を記述している前向きコホート研究を選択した。</p> <p>結果：76 の前向きコホート研究が解析対象となった。6,316,385 名の対象者のうち胃癌発症者は 32,758 名で、野菜・果物・肉・魚・食塩・アルコール・茶・コーヒー・栄養素に渡る 67 の食事因子が取り上げられ、各コホートの追跡調査期間は 3.3～30 年であった。果物と白野菜には胃癌リスクと負の相関が見られたが、野菜全体では見られなかった。これらはビタミン C を豊富に含むことで胃癌発生に保護的に働くと考えられる。また、食塩含有量の多い食べ物は胃癌リスクと正の関連が認められた。飲酒は特にビールと蒸留酒で正の関連が見られたが、ワインでは見られなかった。用量反応のメタ解析では、食塩 5g の増加で 12% のリスク上昇、アルコール 10g の増加により 5% のリスク上昇、100g の果物増加により 5% のリスク低下が認められた。</p> <p>結論：この研究から、食事には胃癌に対する保護因子や危険因子が多く存在することが、包括的かつ強く裏付けられた。この結果は胃癌の予防において、公衆衛生的な示唆に富んでおり、今後のコホート研究や臨床研究デザインへの洞察となる。</p>		